

G 保健（小・中・高）コース

岩手県立宮古高等学校 教諭 古館 将

【部会テーマ】

小・中・高等学校の系統性を踏まえた学習内容を理解するとともに、児童生徒自らが健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組み、生涯にわたって心身の健康を保持増進するための資質・能力を身につけることができる指導の在り方

1 学習指導要領改訂のポイント

「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力の育成を重視した目標・内容の構造化を示しつつ、心の健康や疾病予防、応急手当などの技能に関する内容の充実や、体育と保健の関連を意識した指導の必要性について確認した。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童生徒が課題を発見する場面や課題解決に取り組む場面を単元や授業の中に意図的に位置付けることの重要性が示された。授業改善の視点として、学習の見通しや振り返り、対話を通した考えの深化、教師が教える場面と児童生徒が考える場面の適切な構成について理解を深めた。

2 課題発見を重視した学習

児童生徒自身が健康についての課題を見付ける学習過程を位置付けることの重要性が示された。小学校では「自己の課題」、中学校では「自他の課題」、高等学校では「自他や社会の課題」の発見へと発展することを学んだ。単に知識を習得するだけでなく、実生活と結び付けながら課題を発見し、解決方法を考える授業づくりが求められていることを理解した。

3 深い学びを実現する授業づくり

「心と体は深く影響し合っている」という概念の学習事例から、事実や知識を理解するだけでなく、それらを関連付けて概念的理解へ導く授業の工夫について学んだ。児童生徒同士の対話や具体的な生活場面との関連付けを通して、深い学びを実現するこ

とが重要であると改めて感じた。

4 現代的な健康課題への対応

メンタルヘルス、感染症、熱中症、視力低下、オーバードーズなど、児童生徒を取り巻く健康課題が多様化していることが示された。こうした課題に対応するためには、単に知識を教えるだけでなく、必要な情報を主体的に収集し、適切な意思決定や行動選択ができる資質・能力を育成することが重要であると理解した。

5 学びを実生活に繋げる授業の重要性

保健教育の本質的意義として、「学んだことが実生活とつながる実感」や「未知の健康課題にも活用できる資質・能力の育成」が示された。日常生活では認識しにくい内容についても、事例や実習、身近な場面との関連付けを通して理解を深めることが求められることを学んだ。

6 指導と評価の計画

学習指導要領に基づく「指導と評価の一体化」を実現するための学習評価の考え方と、「指導と評価の計画」作成の具体的な手順について学んだ。

体育・保健体育の目標について確認し、各校種に共通して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成することが求められていることを再認識した。

次に、観点別学習状況の評価について学んだ。保健分野では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行うことが示され、それぞれの観点の趣旨を十分に理解した上で評価規準を設定することの重要性が説明された。

また、「内容のまとまり」と「単元」の違いについ

て整理された。「内容のまとまり」は学習指導要領に示された内容項目を基にしたものであり、「単元」は一定の目標や主題を中心として構成された学習内容のまとまりである。内容のまとまりをそのまま単元とする場合もあれば、複数の単元に分けて設定する場合もあることを理解した。

学習評価の進め方として、以下の4段階が示された。

- (1) 単元の目標を作成する
- (2) 単元の評価規準を作成する
- (3) 指導と評価の計画を作成する
- (4) 観点ごとに総括する

「指導と評価の計画」作成では、評価のみを独立して考えるのではなく、「何を教えるのか」「どのように教えるのか」と関連付けながら検討する必要があることが強調された。評価機会を精選し、学習内容・評価規準・評価方法の整合性を図ることが求められることを学んだ。

7 まとめ

以上の説明を含め、それぞれの校種・グループに分かれ単元を設定し、指導案作成・発表・意見交換・助言を通じて、学習指導要領・授業展開・評価の課題や重要性を実感した。保健教育に求められる役割が今後重要になることを再認識し、児童生徒が生涯にわたり健康で安全な生活を送るための資質・能力を育成できるよう、保健の見方・考え方を働かせる授業作りと、実生活に繋がる学習活動の充実に努めていきたい。